

平成30年度文部科学省「英語教育実施状況調査」の結果について

1 調査目的

英語教育に係る具体的な施策の状況について調査し、今後の施策の検討に資するとともに、各教育委員会における英語教育の充実や改善に役立てる。

2 調査実施基準日 平成30年12月1日現在を調査

3 調査対象 全ての公立小学校、中学校、高等学校、中等教育学校

4 本県等の結果の概要

○英語担当教員の英語力の状況

英検準1級以上等を取得している教員の割合(%)

| | | H29 | H30 | 目標 |
|-----|------------|-------------|-------------|---------|
| 中学校 | 全国 | 33.6 | 36.2 | 50(H29) |
| | 岡山県 | 28.5 | 34.2 | 50(H32) |
| | 岡山県(岡山市除く) | 30.4 | 36.5 | |
| | 岡山市 | 24.6 | 29.7 | |
| 高校 | 全国 | 65.4 | 68.2 | 75(H29) |
| | 岡山県 | 76.9 | 86.0 | 75(H32) |

○生徒の英語力の状況

中3:英検3級以上相当と思われる生徒の割合(%)

高3:英検準2級以上相当と思われる生徒の割合(%)

| | | H29 | H30 | 目標 |
|----|------------|-------------|-------------|---------|
| 中3 | 全国 | 40.7 | 42.6 | 50(H33) |
| | 岡山県 | 38.5 | 37.7 | 60(H32) |
| | 岡山県(岡山市除く) | 40.2 | 35.8 | |
| | 岡山市 | 35.3 | 41.1 | |
| 高3 | 全国 | 39.3 | 40.2 | 50(H33) |
| | 岡山県 | 44.5 | 45.7 | 60(H32) |

・「英検準1級以上等」とは、英検準1級以外に、TOEFL PBT550点以上、CBT213点以上、iBT80点以上又はTOEIC730点以上等を指す。

○授業における英語担当教員の英語使用状況

発話の半分以上を英語で行っている教員の割合(%)

| | | H29 | H30 | | | H29 | H30 | |
|----|------------|-------------|-------------|------------|-----|------|-------------|-------------|
| 中1 | 全国 | 70.1 | 75.1 | 高 校 | 全学科 | 全国 | 46.9 | 50.5 |
| | 岡山県 | 59.9 | 68.6 | | | 岡山県 | 76.6 | 86.6 |
| | 岡山県(岡山市除く) | 58.4 | 69.2 | | 普通科 | 全国 | 46.8 | 50.4 |
| | 岡山市 | 63.2 | 67.1 | | | 岡山県 | 78.0 | 87.1 |
| 中2 | 全国 | 68.4 | 74.8 | 国際関係に関する学科 | 全国 | 85.6 | 88.4 | |
| | 岡山県 | 60.3 | 68.9 | | 岡山県 | 100 | 100 | |
| | 岡山県(岡山市除く) | 59.5 | 70.5 | 専門学科・総合学科 | 全国 | | 48.2 | |
| | 岡山市 | 62.3 | 65.2 | | 岡山県 | | 85.7 | |
| 中3 | 全国 | 67.5 | 73.5 | 専門学科 | 全国 | 46.2 | | |
| | 岡山県 | 61.2 | 69.2 | | 岡山県 | 71.7 | | |
| | 岡山県(岡山市除く) | 61.2 | 72.7 | 総合学科 | 全国 | 41.1 | | |
| | 岡山市 | 61.2 | 60.3 | | 岡山県 | 87.8 | | |

・高校については、H28から学科ごとに公表。調査対象科目は次のとおり。
 普通科、専門学科、総合学科：コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ
 国際関係に関する学科：コミュニケーション英語Ⅰ、総合英語、異文化理解

5 平成30年度の取組とその結果

○英語担当教員の英語力の状況

- ・英語担当教員の検定受験機会の設定や検定料補助制度等により、受験者数が増加するとともに、意識の向上と個人的な取組に繋がり、教員の英検準1級以上等の取得率は、高校では昨年に引き続き目標を上回った。中学校においては目標には達していないが、改善が見られた。（中・高）

○生徒の英語力の状況

- ・中学校においては、4技能をバランスよく育成するための指導資料を基に、授業改善を進めたが、英検3級以上相当と思われる生徒の割合は減少した。（中）
- ・高校においては、生徒の実態に応じて4技能を測定する調査を行うなど、生徒の英語力の把握に努めるとともに授業改善を進めているところであるが、英検準2級相当と思われる生徒の割合は、目標とする数値には届いていない。（高）

○授業における英語担当教員の英語使用状況

- ・公開授業や教員研修会等において、生徒の4技能をバランスよく育むために必要な授業の方法について指導し、中学校、高校ともに授業中の教員の英語使用状況は改善された。（中・高）

6 今後の取組

○英語担当教員の英語力の状況及び授業における英語使用状況

- ・教員の英語力と英語指導力の向上を図るため、高校では中央研修を受講した英語教育推進リーダーによる教員研修を実施するほか、中学校では英語教員を対象にした、英会話スクール等民間の力を活用した研修を昨年度に引き続き実施し、英検準1級以上等の取得率を高めるとともに、授業中の英語使用状況の一層の改善に努める。（中・高）

○生徒の英語力の状況

- ・中学校において、引き続き外部試験の活用により生徒の4技能の力を評価するとともに、生徒の外部試験受験を充実させる取組が推進されるよう、各市町村へ周知する。（中）
- ・中学校において、外部試験の経年変化の分析により収集できた好取組をまとめた指導資料を活用した授業改善に取り組む。また、モデル校において、I C T活用による効果的な指導法を研究する。（中）
- ・授業において英語による言語活動時間の割合を増加させ、放課後等授業以外にもA L Tと英語で話す取組を充実させるなど、生徒が日常的に英語に触れる機会を増やす。（中・高）
- ・高校生の留学や姉妹校交流など海外の高校生との交流を促進し、生徒の英語学習の意欲を喚起する。（高）